

かながわの風

21
November
2018

<http://www.kacsw.or.jp>



特集

自殺予防講演会報告
・認証研修予告
…………… p.2・3

- ソーシャルワーカーデーイベント …………… p.4
- 被災地の支援に入った社会福祉士からの便り(真備町支援レポート) …………… p.5
- たまひよ紀行(川崎) …………… p.6
- 神奈川国際・多文化ソーシャルワーク研究会の活動報告 …………… p.6
- 理事会報告 …………… p.7
- 公開講座・研修情報 …………… p.8



自殺予防講演会報告

「会員3万人の挑戦～人権擁護と社会正義を考える～」を掲げた第18回(平成22年)の日本社会福祉士会全国大会(秋田)にて、「人権擁護」と「社会正義」の価値に基づき、自殺者を出さない社会の実現を目指し、専門職および専門職団体として、地域住民や専門機関・団体と連携し、自殺予防の対策に取り組む社会福祉士が積極的に自殺対策に取り組む」として「大会宣言」を行いました。

これを受けて神奈川県社会福祉士会は、翌平成23年に自殺対策委員会としてゲートキーパー養成研修を開始し、平成27年には自殺予防相談員研修へと発展しました。

現在、自殺対策委員会は神奈川県社会福祉士会理事2名、委員7名、ゲートキーパー上級研修修了相談員14名の体制です。毎月1回の運営定例会の他、相談員スキルアップ研修、自殺対策講演会と包括相談会開催、神奈川県主催こころの相談会への相談員派遣、自殺予防ネットワーク構築のためのゲートキーパー養成研修共同開催などを行っています。

自殺対策委員会では、昨年に引き続き9月29日に自殺予防講演会を神奈川県社会福祉士会として主催しました。講師は、日本の若者の自殺が深刻な状況にあることに問題意識を持ち、マーケティングの手法で自殺ハイリスクの若者のリーチしようと「インターネット・ゲートキーパー(通称:夜回り2.0)」の手法を開発・実施し、NPO法人OVAを設立、座間市の事件後には、ロサンゼルスタイムズ、朝日新聞「社説」など国内外のマスメディアに多数コメントが掲載され、現在は東京都や横浜市他行政の自殺対策に関する委員を受任されているNPO法人OVAの理事であり精神保健福祉士である伊藤次郎氏に登壇いただきました。

子ども・思春期・若年成人の「声なき声」に寄り添う～SNSによる支援の現場から～

於:平成30年9月29日(土) 10:00～ウィリング横浜

講師 特定NPO法人OVA 代表理事 伊藤 次郎氏



日頃相談の現場にいる参加者がほとんどでしたが、若者に対する対応は今までの支援方法とは変える必要がある事、SNS相談の特徴や留意点など、事例と実践を交えた伊藤氏の

講演内容は、援助者としての在り方を改めて考えるきっかけになりました。

伊藤氏と佐々木委員長や様々な立場の参加者が対話形式で意見や疑問点をやりとりした後半は会場全体が真剣な熱気に包まれていました。

山下会長の閉会の挨拶では、相談援助の専門職としての社会福祉士の踏み出す姿勢への意気込みが話されました。

参加者の声

- 社会福祉士=自殺未遂者が推定50万人以上いること。自殺相談者について、電話利用とネット相談の違い、若者の電話離れ、電話相談で見えること、ネット相談で本音が聞こえる但し簡便性の弊害あり、現代の若者たちのネット通信時代の現実と自分たちのネット通信技術を身に付ける必要性、自傷行為は生きる証であることなど、認識を新たにしました。
- 病院連携室=ネットを用いた支援について、支援機関までたどり着けない層へのアウトリーチ的な手法であることを学んだ。「相手に合わせて支援方法を変えていく」との言葉が印象に残り、思考と手法を転換する必要があると感じた。今後、自殺のサイン・介入方法も勉強したい。
- 社会の仕組みづくりにしっかり取り組んでいきたい。
- 学校でも生徒がSOSを出せるようにということを何らかの形で伝えたい。
- ゲートキーパー講座を受講したい(参加者の1/3)



参加者のみなさんは一言も聞き漏らすまいと真剣でした



伊藤氏と佐々木委員長との対話に参加者からもたくさんの質問や意見が



概要

年齢階級別にみた死因の1位は、10歳～14歳および40歳～64歳は悪性新生物であるが、15歳～19歳、20歳～29歳、30歳～39歳では死因の1位は自殺である。日本の若年層特に20代の死因の約50%は自殺なのである。先進7か国の中でも若年層の自殺による死亡率は日本が飛びぬけて多くなっている。また、日本の自殺の統計では年間2万2,000人が自殺で命を絶っている。これは可視化されているデータであり、自殺未遂経験者を含めると推計53万5,000人、実に成人の4人に1人が「本気で自殺したいと思ったことがある」(厚生労働省、2017)(日本財団、2017)という統計も出ている。

また、若年層はスマホ保有率が高く、インターネット利用率は優に95%を超え、Googleで「死にたい」と入力されている回数は、月に13～23万回数に上るとい調査結果もある。テキストベースのやりとりで慣れている若年層にリーチするためには、彼らの文化・コミュニケーション手法に合わせていかなければならない。

若者の「生きづらさ」は閉塞感、居場所のなさ、いじめ、貧困、性暴力、虐待、DV、心の病気など様々であり、悩んでいる若者のインターネット相談(メール・チャット・SNS等)は、ハイリスク層へのアウ

トリーチとして大きな意義と可能性を持つ。電話をする習慣がない若者は、ネット上であれば顔や服装、姿、声を開示せずとも(匿名性)、自分の居場所に居ながらにして(引きこもる部屋でも)、緊張感が緩和され、話づらい内容を自己開示しやすくなる。

自殺念慮を抱く人は「死にたい」と「生きたい」という気持ちの間で揺れ動いており、「死にたい」という訴えの背景は、「助けを求める気持ち」と「助かりたくない気持ち」が同時に存在している。自殺の直前は、強い心理的視野狭窄状態になり「死ぬしかない」との考えに陥っていることが多く「自殺は追い込まれた末の死」といえる。誰かが「かかわる」ことで「生きる」を選択することもある。

「助けて」と言わない・言えない若者たちに、積極的に支援を届けるためには、スティグマ軽減・相談しやすい環境づくりによって相談をしづらくしている障壁を低くし、支え手や相談期間は、当事者ニーズに沿った支援サービスの質を高め・量を増やす(スクールカウンセラー・養護教諭を対象にゲートキーパー教育を行うなど)こと、また支援を必要としている人が最適な支援につながるようにするためには、個人要因(ミクロ)・環境要因(マクロ)などを構造的にとらえ、個人・社会に働きかけることが必要である。

今年で連続3回目となる、横浜市瀬谷区高齢障害支援課障害支援担当、地域包括支援センターとの協働による、地域住民向けのゲートキーパー養成研修です。ゲートキーパーとは、自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応(悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る)を図るこ

横浜市瀬谷区ゲートキーパー養成研修

とができる人のことで、言わば「命の門番」とも位置付けられる人のことです。(厚生労働省HPより)様々な問題が重なり生きづらさを抱え「死にたい」と言う人への声掛けは、躊躇してしまうことはありませんか。講義とロールプレイで話の聴き方や声掛けの方法を学び、地域での活動に活かしていただいています。

事業名	具体的な取組の内容	取組種別	他団体との連携	開催・開始時期
1 自殺対策委員会 運営	相談員研修企画 予防講演会・包括相談会企画運営 自殺予防ネットワーク構築の企画			毎月1回
2 自殺予防相談員現任研修	対象:本会ゲートキーパー上級研修 修了者 内容:自殺予防相談員現任研修 (希死念慮のある相談事例への対応訓練)	人材育成		今年度1回実施 年間3回予定
3 自殺予防講演会	講演会「子ども・思春期・若年成人の「声なき声」に寄り添う」 第1部 講演会「若者の現状とSNSによる支援から見える気持ち」 特定NPO法人OVA 代表理事 伊藤次郎氏 第2部 対話「私たちにできること」 話し手 伊藤次郎氏 (特定NPO法人OVA 代表理事) 聴き手 佐々木美保子 (自殺対策委員会委員長) 会場の皆さま	普及啓発	特定NPO法人 OVA	平成30年09月29日
4 こころの健康・福祉・法律無料相談会(包括相談会)	解決が困難な生活課題は、複数の要因が重なっていることが多いことから、個別の相談に、複数の職種で対応する相談会を開催	様々な悩みを抱える人の相談	横浜市 神奈川県弁護士会 神奈川県司法書士会 臨床心理士	平成30年10月21日
5 自殺予防ネットワーク構築	行政と地域包括支援センター及び本会による連携協働事業としてゲートキーパー養成研修を実施 対象:民生委員等住民及び地域の相談職	普及啓発	横浜市瀬谷区	平成30年10月30日
6 平成30年 自死遺族支援研修	自殺対策基礎研修の一環 委員参加	人材育成	神奈川県精神保健福祉センター	平成30年06月12日
7 平成30年 地域自殺対策包括相談会「こころとくらしの相談会」	相談員派遣	様々な悩みを抱える人の相談	神奈川県精神保健福祉センター	平成30年09月23日 他1回
8 平成30年度 横浜市自殺対策街頭キャンペーン	委員参加	普及啓発	横浜市健康福祉局 こころの健康相談センター	平成30年09月10日
9 よこはま自殺対策ネットワーク協議会	委員参加	ネットワーク構築	横浜市健康福祉局 障害企画課	年間3回
10 横浜市自殺対策計画策定検討会	委員参加	その他	横浜市健康福祉局 障害企画課	年間4回

自殺のサインに気づき、早期発見と対応が自殺防止につながることを理解するためには、神奈川県社会福祉士の各支部、職域と連携協働して、「ゲートキーパー養成研修」や「包括相談会」の開催に取り組むことが有効です。そのためには、会員の皆様の協力が必要です。各支部、職域でゲートキーパー養成研修や包括相談会の開催の検討、そして、自殺対策委員会活動へのご協力をお願いします。

2018

ソーシャルワーカーデーイベント **i**_n 神奈川

「私の中のソーシャルワーカー 二軸の視点から」開催

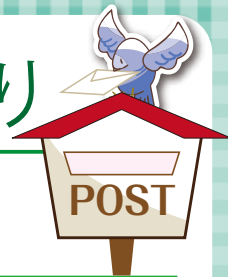
去る7月21日（土）、横浜市中区の横浜市開港記念会館にて、「ソーシャルワーカーデー in 神奈川私の中のソーシャルワーカー 二軸の視点から」（主催：ソーシャルワーカーデー in 神奈川実行委員会）が開催され、多くの聴衆を前に3人の専門家による実践を通じたソーシャルワークについての講演会が開かれました。

今回の企画はいわゆる2つの領域で活動しているソーシャルワーカーが、どのような視点をもっており、実践に生かしているのか、その想いを語ることでソーシャルワークをより深く理解しようというものでした。登壇者は、弁護士で社会福祉士の千木良正（小長井・千木良・渡邊法律事務所）さん、島田恭子（社会福祉法人真生会）さん、成田光江（福井県立大学看護福祉学部看護学科）さんの3名。千木良さんは、司法試験前にボランティア活動にかかわったことで、障害のある人の権利擁護に関心を持ち、弁護士と社会福祉士という両方の視点で活躍しています。島田さんは障害児保育や障害者支援などを経て、社会福祉士を取得。保護者を支えて子どもたちの心身の成長に寄り添うという理念に基づいた施設運営の中で相談援助の専門性を高めることでよりよい支援を追求しつづけています。成田さんは、看護師と社会福祉士として、個別支援と地域支援の2つの視点による援助技術で社会が抱える課題に向き合っています。

それぞれの発表後にはシンポジウム形式により、ソーシャルワーカーの将来などについて話し合いがもたれました。分野は異なるものの、ソーシャルワークの第一線で活躍中の専門家の報告に、参加した多くのソーシャルワーカーからは真剣なまなざしが注がれ、活況のうちに閉幕しました。



被災地の支援に入った社会福祉士からの便り



この夏、西日本豪雨、北海道胆振東部地震をはじめ、多くの災害が発生しました。
被災地に支援に入った社会福祉士から寄稿をいただきました。

学生とともに災害復興支援ボランティア（愛媛県大洲市）

日本体育大学 本多 洋実 さん

9月6日（木曜日）から8日（土曜日）の3日間、愛媛県大洲市に、学生8名を引率して災害復興支援ボランティアに行ってきました。

初めての場所に行くにあたり、お世話になったのが、愛媛県社会福祉士会事務局長の鈴木正幸氏でした。彼とは石巻市渡波支援の時から福祉士仲間です。

鈴木さんが大洲市への支援について日本社会福祉士会に相談していましたので、私たちも大洲市に行こうと決めました。大洲市社会福祉協議会の黒江会員を紹介頂き、黒江会員も担当者へのつなぎをしてくれました。

大洲市ではボランティア受け入れを、県内在住者、土日祭日に限定していましたが、私達の平日の活動を市教育委員会に打診、市内3小学校から体育の授業の支援を依頼されました。具体的には、水泳、陸上、組体操等の授業と、放課後活動の補助です。学生たちはクロール、バタフライ、背泳ぎ等の模範泳法や、組体操をやって見せて、陸上100メートルを共に走り、手を取り足を取り、子ども達に寄添いました。

子ども達も先生方も洪水で被災し、仮設住宅や親戚宅から学校に通っている人たちが多くいました。

小学校の中で友達と歓声をあげたり、楽しそうにしている様子からは、被災地であることを忘れてしまうくらい元気な子ども達でした。

土曜日は被災した住宅で土嚢運びや水路の泥出しを、現地のボランティアの方々と行いました。

日本社会福祉士会の仲間のお陰で、知らない土地での活動がスムーズに、かつ、学生の安全確保の両立ができました。感謝です。



岡山県倉敷市災害ボランティアセンター・同真備地区支所にて

神奈川県社会福祉協議会 伊部 智隆 さん

勤務や健康上の都合で一週間単位の活動は困難ですが、通常ではあまりない、一日でも支援を受け入れていただける日本社会福祉士会（岡山県社会福祉士会）の活動に参加しました。大変ありがたく感謝しています。

私が担当したのは、被災者からのボランティア派遣の電話受付、ボランティア派遣の調整後に実際に訪問する世帯への連絡や、すでに7月中旬に支援をした方にその後の状況を伺う、というコーディネートでした。熊本県社会福祉士会の方とご一緒させていただきました。

被災地には「ボランティアをしたい」と、当時は毎日

1200人以上が訪れていました。被災者は疲れ切っており、また、全国から駆け付ける応援のボランティアや応援の職員も同様に、当初の想定以上に長引く支援に疲労感を隠せません。

特に倉敷市真備地区（町村合併前は真備町）に、計10ヶ所の災害ボランティアセンターの支所を設置せざるを得ない現実から分かるように、大規模災害に見舞われた時には、大規模な外部からの支援が必要となります。支援を受け入れる「受援（じゅえん）」も、日ごろから想定し訓練することが必要だと感じました。

無念な思いでお亡くなりになった方や被災された方の苦労を無にしないためにも、私達自身の教訓として、災

害支援の現場に足を運んだり訓練や学びを深めていく必要性を痛感しました。





たまひよ紀行

参加者の
声



「たまひよクラブ」は、社会福祉士を目指す方、社会福祉士となって日が浅い方が集い、交流し、つながりをつくり、深める場です。今回は、川崎支部で開催された交流会について報告します。

たまひよクラブ@川崎

川崎支部幹事・組織向上委員会副委員長 木村 有孝

たまひよクラブでは、社会福祉士国家試験に挑戦している学生や、社会人として働きながら社会福祉士を目指している方、社会福祉士を取得したばかりの方等を対象に、各支部で交流を深めています。

今回は、7月9日（月）に麻生区内にある田園調布学園大学図書館で開催しました。

当日は、学生6名、新人社会福祉士等4名に対して、社会福祉士会に入会するメリットを説明した後、行政、高齢、障害、地域福祉、独立型社会福祉士、成年後見、多文化共生等の各分野で活躍する先輩社会福祉士8名が5グループに分かれ、各分野の特徴説明、実習・進路相談、意見交換等を行いました。

参加者からは、「少人数で聞きたいこと、得たい情報を収集することができた」「活躍している方のお話が聞けて満足」「実際の現場での様子が知れたので、将来のキャリアプランを思い浮かべることができました」「社会人ならではの悩みや、社会人となって様々な経験や会のつながり等を知ることができた」等の感想が寄せられました。

今回、会場としてお貸し頂いた田園調布学園大学図書館は、4月にリニューアルオープンしたばかりで、地域の子どもたちが集い絵本の読み聞かせコーナー、学生等がリラックして過ごせるスペースがあり、参加者もリラックスしながら楽しめたことと思います。また図書館には、社会福祉分野の専門書等111,595冊、雑誌300タイトルあり、一般開放もしているため、現場の専門職も利用しているそうです。ご利用を希望の方は、是非、お問い合わせ下さい。尚、ホームページの「学外の方へ」に対象、利用手続、対象サービス、遵守事項等が記載されています。



田園調布学園大学図書館 ホームページ <https://library.dcu.ac.jp/drupal/> 電話 044-966-3443

神奈川国際・多文化ソーシャルワーク研究会の活動報告

神奈川県のカモスク見学ツアーを開催しました

研究会では、偶数月の研修会に加えて、毎年、フィールドワークも行っており、本年度は、神奈川県にある3ヶ所のカモスクのうち、海老名カモスクに行ってきました。

参加者は、神奈川県社会福祉士会の会員の他、イスラム教を信仰する子ども等に日本語を指導する教師等15名でした。

イスラム教徒が多く住むマレーシアでの生活歴のある研究会会員が事前学習用の資料を配布し、イスラム教の基本知識や見学マナー等について訪問前に説明しました。

当日は、定められた服装で行き、希望者は手足等を水で流して身を清めた後、礼拝を見学しました。その後、宗教心やイスラム教の六信五行等についての説明を受けました。質疑応答の時間では、学校や食事の配慮事項に加え、日本における日常生活上の課題について深めました。途中、ハラールフードも振舞われ、食事をしながら懇親を深めることができました。

イスラム教徒の皆さんからは、「マスコミの誤報道に惑わされず、今日、学んだことを多くの日本人に伝えて欲しい。必要な時には外国人の文化に配慮した相談支援をして欲しい」というメッセージを頂きました。

神奈川県では外国人の数が増え続けており、多文化共生社会の実現に向けて、まずはお互いを知るための機会を研究会として企画して行きたいと思います。

副会長 木村 有孝



<平成30年度 理事会 報告> (偶数月開催以外は臨時理事会となっています)

■臨時理事会 平成30年7月13日(金) 19:00~20:55 神奈川県社会福祉会館4階 第4研修室

議長: 山下会長、理事出席15名 事務局1名 議事録署名人: 出席全理事 江原監事

- 審議事項** 議案1 入退会審査—6月入会27名、退会1名、転出2名、6月末で会員が3,000名を超え、会員数3,016名、組織率18.46%を確認し承認 議案2 2018年度相模原市ホームレス等一時生活支援事業実施委託契約—契約締結で承認 議案3 ばあとなあ神奈川後見人等候補者名簿登載に関する規則改正案—一部記載訂正の上承認 議案4 ばあとなあ神奈川成年後見人候補者名簿登録状況及び後見人等候補者推薦の状況—承認 議案5 2018年度未成年後見人養成研修受講者推薦及び取りまとめ—研修受講者の推薦順位を検討し承認 ※未成年後見人受任を本会で実施する場合は改めて検討する。 議案6 2018年度成年後見人材育成研修業務委託契約—内容確認後、日本社会福祉士会との契約締結を承認
- 協議事項** ①法テラス「法教育研修(講座)」の共催—成年後見制度普及啓発事業企画との共催を検討する方向で承認
- 報告事項** ①正副会長動向(前回理事会から本日開催までの期間)報告—6/16関東甲信越ブロック協議会・日本社会福祉士会総会他、7/4顧問弁護士相談会まで正副会長の動きを確認 ②日本社会福祉士会総会・全国大会の報告 ③2018年度成年後見人材育成研修受講決定 ④会計進捗状況4月・5月分—各委員会事業部執行状況確認 ⑤各推薦・後援状況の一覧を確認 ⑥2ヶ月報告 各事業部委員会4月・5月の活動報告—確認 ⑦各支部月次活動報告—確認 ⑧受託事業4月・5月の活動報告—県委託生活困窮者支援都道府県研修進捗状況他、確認 ⑨代議員総会議事録報告—確認 ⑩6月2日・6月9日開催理事会議事録報告—確認 ⑪平成30年7月豪雨関係—山下会長から甚大な被害を受けた方々への支援に対し、厚生労働省社会・援護局からの文書、全社協からの状況報告文書情報提供の件、支援協力があつた場合には具体的な支援協力をする旨説明があつた。 ⑫理事・各委員会委員・各支部役員・職員一覧—確認 以上了承

■臨時理事会 平成30年8月20日(月) 19:00~20:45 神奈川県社会福祉会館2階 第1会議室

議長: 山下会長、理事出席16名 事務局1名 議事録署名人: 出席全理事 齊藤監事 江原監事

- 審議事項** 議案1 入退会審査—7月入会13名、退会0、転出2名、転入1名、7月末で会員数3,028名、組織率18.50%を確認し承認 議案2 ばあとなあ神奈川成年後見人候補者名簿登録状況及び後見人等候補者推薦の状況—8月1日の登録者数は568名、うち家庭裁判所提出名簿の登録者数は484名を確認し承認 議案3 認証研修の開催—今年度は多文化ソーシャルワーク研修、リーガルソーシャルワーク研修、障がい者の生活支援研修、災害支援活動者養成研修の4つについて開催することを承認 議案4 第三者評価事業受審契約—障害分野2件、GH2件の契約を承認
- 協議事項** ①理事会検討事項に関する支部への伝達方法検討—理事会結果について当月開催の理事会議事録が、その次に開催の理事会で承認ののち、ホームページに掲載、その他支部への会の動向に関する情報提供のあり方については、継続した課題とすることで了承。 ②会長声明文と法人後見業務執行者への注意喚起の方法—佐賀県士会の法人後見不祥事を受け本会として会長声明を出すこと、法人後見業務執行者あて注意喚起文書を出すことを了承
- 報告事項** ①正副会長動向報告—7月21日SWDイベント他の対外的活動内容を確認 ②災害発生時における研修会運営の考え方 内規—案を次回の総務企画会議で再度検討 ③会計進捗状況6月・7月分進捗状況 確認 ④各推薦・後援状況—横浜市介護保険運営協議会ほか合計3件の推薦、1件の後援を確認 ⑤2ヶ月報告 各事業部委員会 6月・7月の活動報告—確認 ⑥各支部7月の活動報告—確認 ⑦受託事業6月・7月の活動報告—本会の各受託事業進捗状況の確認 ⑧十三士業合同相談会実施報告—当日相談担当理事報告により確認 ⑨7月13日開催理事会議事録—確認 ⑩本会新規採用職員(地域生活定着支援センター) 資料確認

■臨時理事会 平成30年9月8日(土) 15:00~17:05 ワークセせらぎ事務所

議長: 山下会長、理事出席13名 事務局1名 議事録署名人: 出席全理事 江原監事

- 審議事項** 議案1 入退会審査—8月入会2名、退会1名、転出1名、転入無し、8月末で会員数は3,028名、組織率18.47%を確認し、承認 議案2 ばあとなあ神奈川成年後見人候補者名簿登録状況及び後見人等候補者推薦 法人後見状況—9月1日現在で登録者数は565名、うち家裁名簿登録者数484名。法人後見受任状況は、現在10件で推移。法人後見の事務分掌体制は今後見直し、継続して検討、議論をすることで承認。 議案3 規則改正案—①規則29号 相談事業部組織及び運営規則改正案 ②規則31号 福祉サービス第三者評価事業部改正案 ③規則32号 国家資格取得支援事業部の組織及び運営規則改正案 ④規則33号 社会福祉士実習指導者養成事業部規則改正案 ⑤規則37号 「生涯研修センター」運営規則改正版 ⑥細則1号支部活動費交付細則改正案 ⑦自然災害等発生における本会主催研修会の開催の判断内規 以上承認 議案4 神奈川県委託再犯防止福祉ネットワーク構築事業—受託を検討、承認
- 協議事項** ①2019年度事業計画・予算(案)作成スケジュール予定の確認 ②支部役員連絡会日程確認
- 報告事項** ①日本社会福祉士会会長会議 ②法テラス「法教育研修(講座)」の共催 ③日本社会福祉士会フォーカス・グループインタビュー調査対象者推薦 ④正副会長動向 ⑤会計進捗状況8月分確認 ⑥各推薦・後援状況—山北町高齢者虐待防止ネットワーク運営委員会他7件、後援は神奈川県社協「福祉のしごとフェア」他4件を確認 ⑦8月20日開催第3回理事会議事録確認

月	日	開始時間	終了時間	研修名	概要	場所	主催	対象	費用
12	1	18:00	20:00	当事者の“想い”を知るためには… ～意思決定支援について考える～	当事者のライフステージを意識した意思決定支援への理解を深める 講師：鈴木敏彦氏 (和泉短期大学)	横浜市大豆戸地域ケアプラザ	横浜支部 港北区 連絡会	今回のテーマに興味のある方	無料
12	9	11:00	14:00	大塚モスク見学ツアー	イスラム教の理解、モスクの社会貢献活動、ムスリムの生活課題を学ぶ見学会	東京社会福祉士会に集合後、大塚モスクへ移動	神奈川・国際多文化ソーシャルワーク研究会	概要に理解のある方	無料
12	15	18:00	21:00	多文化ソーシャルワーク研究会 年末パーティー	IFSW世界大会・カンボジアでの国際協力活動の報告、外国人介護士との交流、立食パーティー	横浜市宮崎地域ケアプラザ	神奈川・国際多文化ソーシャルワーク研究会	研究会の活動に興味のある方	研究会会員 2,500円、 非会員 3,000円
12	15	17:00	19:00	い～すと・うえすとの会	情報交換、懇親会	未定	湘南東・西支部	会員	未定
12	23	13:30	16:30	東日本大震災の中で、成年後見人がどのようなことを思い、被後見人に対する支援を行ったのかを学ぶ	「被災する」とは実際何が起き、またその時、後見人は何をし、今も続けているのかー東日本大震災で被災した後見人の方から体験談を伺い、支援の在り方を学びます。	横浜西公会堂	ばあとなあ 神奈川 研修部門	一般・会員	無料
1	13	13:30	17:00	私たちの暮らしを守る成年後見制度～消費者被害を通じて「成年後見制度」について学びませんか～ (ばあとなあ神奈川 成年後見制度普及啓発事業)	①講演「消費者被害、地域で取り組む『見守り』『成年後見』～成年後見制度の必要性～」 ②報告「成年後見人の活動を知ろう」 ③成年後見個別相談会	ユニコムプラザさがみはら(小田急線相模大野駅下車徒歩3分)	神奈川県社会福祉士会	どなたでも(事前申込不要、手話通訳あり)希望者は12月15日までに事務局へ連絡ください)	無料
1	26	13:30	16:30	横浜市社会福祉士会連続講座 中級編～疎むような現実にソーシャルワーカーは何かができるのか～	ゲストスピーカーの話を聞き、合意形成や発信の手法を学ぶ コーディネーター：西川ハンナ氏(創価大学)	港南区福祉保健活動拠点	横浜支部	今回のテーマに興味のある方	1000円
1	26	15:00	16:30	公開講座	車いすでも海水浴を満喫!一緒に夢が叶う@バリアフリービーチ	JAちがさき	湘南東支部・湘南西支部	会員、一般	無料
2	16	13:30	16:30	横浜市社会福祉士会連続講座 中級編～疎むような現実にソーシャルワーカーは何かができるのか～	ゲストスピーカーの話を聞き、合意形成や発信の手法を学ぶ コーディネーター：西川ハンナ氏(創価大学)	港南区福祉保健活動拠点	横浜支部	今回のテーマに興味のある方	1000円

NEWS 湘南東支部、湘南西支部による初のコラボ企画開催予定

2019年1月26日(土)午後3時から午後4時半まで、「JAちがさき」にて、「車いすでも海水浴を満喫!一緒に夢が叶う@バリアフリービーチ」を開催することが決定しました。神奈川県社会福祉士会湘南東支部と湘南西支部によるコラボ企画となります。美しい湘南の海岸でひろがる支援の輪をテーマにした公開講座です。詳細はホームページ等でお知らせする予定です。ご期待ください。

表紙写真大募集!! あなたの写真で「かながわの風」の表紙を飾りませんか?

広報事業部では「かながわの風」の表紙を飾る写真を募集しています。

テマ： 神奈川の風景
カメラ： デジタルカメラで、一眼レフやコンパクトカメラ、スマートフォンなど機種は問いません。
画素数： 3024×4032ピクセル以上
送信先： koho@kacsw.or.jp
締め切り： 11月26日(月)

＜ご注意＞

- 写真のファイルサイズが大きい場合は、クラウドストレージなどをご利用ください。送信方法が不明な場合は、上記メールアドレスまでご相談ください。
- 人物を被写体にしないでください。人物が個人を特定できるサイズで写っている場合は、同意を得た場合でも採用しない場合があります。
- 採用する場合は、掲載号発行前にメールにてご連絡を差し上げます。不採用の場合はご連絡を差し上げませんので、ご容赦ください。

編集後記

まもなく師走に入る。少しくたびれた手帖を開いては、「さてさて…この週で空いている日は…」と日程調整に、「にやり顔」で頭を悩ませる、そんな時間が増える季節でもあろう。やがて夜の街には道端にうづくまる人、誰かの肩を借りて引きずられながら家路につく人、無理やりタクシーに乗せられる人、そんな人々を見かけるのもこの季節の風物詩である。「酒は人間を駄目にするものじゃなくて、酒は人間というものは元々駄目なものだと教えてるんだよ」と、古典落語に広く精通し、現代と古典との乖離を絶えず意識しながら、長年にわたって理論と感覚の双方から落語に挑戦し続けた7代目立川談志さんの語録にある。人間の本质とは何か考えさせられることは勿論であるが、行きすぎた飲酒にはくれぐれもご注意頂きたい。そして最後に、平成18年に福岡市で起きた飲酒運転の車に追突されて車ごと海に沈められ、幼い3名の命が失われた事故を忘れてはならないだろうか…。他人～ひと～の人生も自身の人生も一瞬で台無しにしてしまう一生涯後悔もある。それほどまでにして飲みたい「美味しい酒」、それほどまでにして共にしなければならぬ「付き合い酒」など何処にも無い。どうか年末年始、素晴らしい時間を…。(広報委員長：日向 明)